

# 前橋市を探究学習のフィールドにして 1年生、地域活性化の「芽」を見つける



探究通信  
第13号  
R5.3.17  
1学年まとめ号

9月の「まちなかりサーチ」から始まり、11月の「市内企業フィールドスタディ」、1月の「報告会」と、今年度も地域の方々の協力のもと実施した。



各グループはそれぞれ積極的に店主に声をかけ情報収集を行った。

9月15日(木)に「まちなかりサーチ」を実施した。これは1年生が本校の「地域活性化プロジェクトめぶく」を行っていくための最初のINPUTの活動である。昨年度同様、前橋観光コンベンション協会が発行している「前橋まちなか&新前橋駅周辺マップ」を持つ

て前橋中心商店街でのフィールドワークである。6つのエリア(弁天通り・広瀬川詩の道周辺、中央通り周辺、前橋駅北口周辺、馬場川通り周辺、千代田通り・銀座通り周辺、オリオン通り・立川町通り周辺)を歩いてそれぞれのエリアにおける魅力と課題を発見し、班で

共有した。生徒たちは「視点」(キーワードとして「地域を元気に」/「多様な人々の共生」/「人生の充実」/「暮らしや仕事を支える技術」/「健康で安全な暮らし」/「持続可能な社会」の6つの視点を設定)を持って中心市街地をじっくり歩いた。生徒たちは気になる店舗に足を運び、情報収集のため積極的に店主とコミュニケーションをとるなどの主体的な活動を行い、地域課題と前橋中心商店街の魅力を感じ取ったようだった。この活動の様子は群馬テレビで放映された。

11月17日(木)には、地元企業31社の方々にご協力をいただき、「市内企業フィールドスタディ」を行った。「地域(前橋市)とのつながり」をキーワードに、生徒たちは各班に分かれ企業訪問を行った(右下写真は群馬日産自動車株式会社での訪問の様子)。



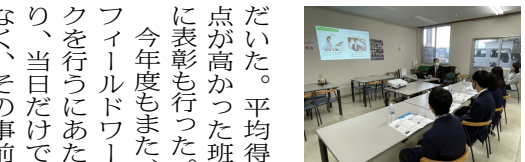
来場者の前で堂々と発表を行った。

1月26日(木)には本校メインアリーナにて、「市内企業フィールドスタディ」の「報告会」を行った。それぞれの企業の特性や強み、地域とのつながりについてのインタビュのまとめとして実施した。「訪問して知った企業の強みを活かし、



地域の課題を解決するために」という視点を持つことを目標としており、それは2年次での探究学習につながっていくものである。フィールドスタディを終えてから生徒たちはクロムブックを活用しつつ、班で協力しながら発表資料を作り上げてきた。生徒たちは見ている人に伝わりやすいスライド作りや発表を心がけることができていた。報告会には、お世話になった企業の方々や本校の探究学習でお世話になっている前橋国際大学の奥山龍一教授や高崎商科大学広報・入試室の羽鳥広平さんにもお越しいただき、講評をいただいた。来場者の方々には発表に関しての質問をしていただくことも、発表の審査をしていた

なく、その事前学習、事後学習にも産官学連携をして、様々な方に協力をお願いした。9月8日(木)には共愛学園前橋国際大学の奥田雄一郎教授と前橋まちなかエージェンシー代表理事の橋本薫さんによる講演会、「まちなかの今」を開催した。10月20日(木)には高崎商科大学の羽鳥さんによる「サブライチエーションについて」の講演とワークを行い、生徒はフィールドスタディにおいて、「地域のつながり」について探究する姿勢を育んだ。11月10日(木)には再び奥田教授に登壇いただき、「インタビュの手法」について、前橋国際大の学生たちとともに指導いただいた。「報告会」準備にあたっては、12月8日(木)



の羽鳥さんによる「サブライチエーションについて」の講演とワークを行い、生徒はフィールドスタディにおいて、「地域のつながり」について探究する姿勢を育んだ。11月10日(木)には再び奥田教授に登壇いただき、「インタビュの手法」について、前橋国際大の学生たちとともに指導いただいた。「報告会」準備にあたっては、12月8日(木)